

杏林医学会 第35回例会 開催報告

Sigma 1 receptor and chronic pain

(演者 Dr. Jay Yang)

杏林大学医学部麻酔科学教室

中 澤 春 政

2108年11月29日に基礎棟3階会議室において、杏林医学会第35回例会を開催させていただきました。本例会では、講師として University of Wisconsin の麻酔科教授である Jay Yang 先生を招聘して、「Sigma 1 receptor and chronic pain」というタイトルでご講演いただきました。

Jay Yang 先生は神経障害性疼痛に関する研究の世界的第一人者であり、特にウィルスベクターを用いた分子標的治療は世界中から注目を集めておられる非常に多忙な方なのですが、2018年に開催された日本麻酔科学会年次学術集会において、当教室の萬知子教授が Jay Yang 先生の特別講演の座長を務めたことがきっかけで、本例会での講演が実現しました。

本講演では、治療が困難とされる神経因性疼痛の新たな治療標的として Jay Yang 先生のグループが注目している「Sigma 1 receptor (S1R)」に関して御講演いただきました。まず前半は、S1Rに着目した経緯から始まり、疼痛伝達における関与、S1R KOマウスの作成に至るまでの研究成果をお話しいただきました。後半は、近年取り組ん

でおられる AAV (adeno-associated virus) ベクターを用いた、脊髄後根神経節 (DRG: dorsal root ganglion) に対する選択的な S1R KOマウスの作成、疼痛刺激に対する S1R KOマウスの分子科学的な評価、行動評価の研究成果を報告していただきました。専門的な内容であったにも関わらず、聞き取りやすい英語で、わかりやすくお話しただいたため、私のように疼痛治療を専門としていない者にとっても理解しやすい内容でした。

本例会には当教室員だけではなく、泌尿器科、生化学教室、生理学教室や解剖学教室等の多くの先生にご参加いただき、日本語を交えた質疑応答も活発に行われました (Jay Yang 先生は日本語が大変お上手でした)。

Jay Yang 先生にお話しいただいた最新の分子標的治療の手法や、そこに至るまでの研究の経緯などは、疼痛治療に携わる者だけでなく、医学研究に携わる者にとって非常に有益な講演となりました。

最後に、本例会開催に際してご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。